

厳しい競争の中、知的財産を活用し差別化を図っている中小企業

和歌山県橋本市の畑野産業株式会社(従業員23名、資本金1,000万円)は、プリーツ加工を得意とする繊維メーカーである。

同社は、中国など近隣諸国との競争激化という業界事情から、「脱衣料」を掲げ、「大手企業と競合しない」、「プリーツ加工技術を使う」という方針で新分野の開拓を目指した。異業種交流会などで異分野の情報を入手していく中、ヨーロッパの技術に出会うこととなり、ヨーロッパ企業と共同でプリーツ技術を使ったブラインドの商品開発に成功した。

しかし、知的財産権の取得をなおざりにしたことから、せっかく苦労して完成させた技術が他社に模倣され、悔しい思いを味わった。こうした経験を通じて、同社は知的財産権に対する知識を深め、積極的に権利取得をしていくこととなる。もっとも、中小企業が特許出願をするには、資金的な制約のほか、出願公開などのリスクもあることから、同社では、特許出願をする代わりに、出願書類等に確定日付をとり、企業秘密として管理している技術もあるという。

同社の畑野富雄会長は、「中小企業こそ、知的財産をうまく活用していかねばならない」と語り、今後とも、知的財産戦略を重視し、技術開発力を活かして製品差別化に取り組んでいきたいとしている。



商品開発に成功したプリーツブラインド